祝・50号！

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

京阪電車を見よ！

中之島

Vol.50 2012 9/1

◉iPadサイズ（と、ほぼ同じ）

島学

ナカノシマ大学

「古地図で読み解く大阪の歴史」

本渡 章

（作家・ライター）

申し込み受付中！

島民Vol.50.indd 2 12/08/23 3:30

祝・50号特集

京阪電車を見よ！

2008年、京阪電車中之島線の開業を機に創刊した月刊島民の第50号記念特集は、その京阪電車の大研究。今回は特に鉄道会社の個性が最もよく現れる車両に注目。中之島線や大阪だけでなく、京都や大津まで。新しい動きを歴史の流れに位置づけて考えると、何が見えるのか。最新トピックの中から京阪電車らしさを導き出す。

電車と言えばこの人！
文／黒田一樹さん

東京在住の中小企業診断士だが、世界153都市中の80都市で地下鉄に乗るなど無茶な発想と行動を愛する鉄道道楽者。ナカノシマ大学2012年2月講座「すごいぞ!大阪の鉄道」にご登場の際は超満員札止めの人気。

赤と黄の車体に鳩マーク。

特別料金不要ながらゆったりした転換式クロスシート、テレビカー、ダブルデッカー、かつては豪華な段織りシートモケット、空気バネ台車や冷房といったその時代時代における最高級の接客設備を導入することで、速達性に優れる阪急やJRを（川の）向こうに回してきた京阪特急こそ、伝統の象徴であり、京阪電車の精神である。

かつては、「京橋を出ますと、京都の七条まで停まりません」が自慢だった京阪特急の停車駅に、2000年に中書島と樟葉が加わった。昼間は9000系セミクロスシート車（当時）も加わり10分間隔で運転されるなど、なるほど利便性は高まった。

さらに、2008年に中之島線が開業。8000系は赤・黄色の配置を従来と上下逆にし、さらに金色の帯を巻いた新しい衣裳をまとい「エレガント・サルーン」を名乗る。車内も一部ロングシート化を含めたリニューアルが始まった。テレビカーも使命を終える。そしてこの夏。40年以上にわたって君臨した旧3000系の、来春での引退が発表された。昔日の〝よそいき〟の京阪特急は、もはや帰らないのか。

いや、筆者は異を唱えたい。旧3000系が伝説になろうとする現在こそむしろ、京阪特急の「原点回帰」が始まろうとしているのではないか。それは何か。快適さであり、優雅さである。月をモティーフにしたデザイン・アイデンティティと共に、形を変えつつも、その精神はこれからのエレガント・サルーンに、あるいは大津や富山でも継承されようとしている。今と昔をふり返りながら「原点回帰」する京阪特急のエッセンスを感じよう。

よりエレガントになった8000系。

登場から20余年、8000系のエレガント・サルーンへのリニューアルが進行中。3000系コンフォート・サルーン（P7）にもある液晶モニタの設置などに加え、停車駅増に伴い車端部を乗り降りしやすいロングシートにしたが、そこは京阪特急。ロングシートとしては極めて大型のヘッドレスト付き背もたれを用意したおもてなし精神は、大向こうを唸らせた。

2012京阪電車ここを見よ！

【原点回帰】の特急車。1

ノンストップ特急の復活、8000系のリニューアル、そして来春の旧3000系の引退。これら特急車のニュースの背景に見られるのは、電車に乗る楽しみを重視した原点への回帰ではないか。

旧3000系 最後の夏を見逃すな！

よもや全廃かと思われた中での奇跡的な生き残り、まさかの2階建て改造→8000系への編入と、ドラマティックな一生を歩んだ8000系30番台＝旧3000系。1900系以前の特急車が通勤車両に改造を受けた一方、誇り高き特急車のまま来春引退する旧3000系こそ、優美な表情をたたえた孤高の名車だ。運行時刻をwebサイト（www.keihan.co.jp）で確認し、思う存分記憶しよう。

日本各地で京阪特急色が復活！

8000系の登場後、旧3000系の一部は富山地方鉄道や大井川鉄道で第二の人生を送ることに。富山では黄と緑に塗り替えて活躍しているが、この夏、1本を京阪特急色に復元。併せて鳩マークやテレビカーも復活する。

さらに、三条駅で特急に接続した京津線260型・300型はかつて京阪特急色をまとっていた。300型の生まれ変わりで、現在は石山坂本線を走る600形の1本が、この秋に大津線100年を記念して再び赤黄に。旧3000系の引退で旧特急色は消えると思いきや、あちこちで引き継がれるのだ。

「京都の七条まで停まりません」再び。

長らく京阪特急は京橋―七条間ノンストップの落ち着きが売りだったが、停車駅が増えたことで、「特別な日の電車」が「日常の電車」になったようで、オールドファンは一抹の寂しさを覚えていた。昨年秋、久々にノンストップ京阪特急を運転したところ好評で、今春にも運転。ラジオ番組とのタイアップで「洛楽」と愛称がついた。

島民Vol.50.indd 3-4
12/08/23 3:31

京阪特急回想記

あぁ、懐かしの

「原点回帰」の動きを感じさせる京阪特急。
では、その「原点」とは。
これまでの特急車の変遷をたどる。

流線形特急、颯爽とデビュー。

戦時中は阪急と合併していた京阪電車だったが、昭和24年（1949）の分離独立後には高規格の「新京阪線」改メ「阪急京都線」がライバルとして立ちはだかった。そこで翌年、当時の花形車両だった昭和13年（1938）製の流線形1000型を再整備して「京阪特急」が登場。各私鉄が思い思いに趣向をこらした特急車を導入して覇を争う、鉄道王国・大阪の始まりの時代にあたる車両である。その後1000型は、昭和45年（1970）までに700系に台車や機器を譲って全車廃車となった。

製造初年●1938（昭和13）年
定員●120人（座席52人）
自重●41.5t
全長●18,720mm

乗り心地の良さに、「無音電車」の声も。

好評の京阪特急に昭和26年（1951）、初めて赤・黄色をまとう1700型が登場。さらに２年後、特急増強用に新製した1800系は、全金属車体に関西初の「カルダン駆動」を備えた新世代車のはしりで、スムーズな走りと乗り心地の良さは当時の最高レベルにあった。昭和29年（1954）には、庶民の憧れだったテレビを搭載するテレビカーを連結。復興の希望を乗せ、平和の象徴・鳩マークを掲げて戦後の京阪間を往来した。そしてサービスの充実、乗り心地のさらなる追究へと歩み出していく。

製造初年●1953（昭和28）年
定員●130人（座席54人）
自重●33.0t
全長●17,700mm

日本初！「空気バネ台車」をセット。

1800系の車体を１ｍ長くして昭和31年（1956）に登場。日本で初めて圧縮空気の弾力性を利用した「空気バネ台車」を搭載（言わばクルマのエアサスペンション）。阪急や国鉄に較べてカーブが多く、速さではハンデのある京阪特急にとって、グリーン車並みの座席やテレビカー、空気バネ台車などによる快適性、楽しさの提供は生命線であったことから、時代に応じて常に最新鋭車が投入された。この結果、1810系の誕生によって1700系は早くも特急から一搬車となった。

製造初年●1956（昭和31）年
定員●140人（座席58人）
自重●33.5t
全長●18,700mm

淀屋橋延伸のシンボルは息の長い生涯。

昭和38年（1963）、念願だった天満橋から淀屋橋への延伸の象徴として登場。鉄道車両には珍しいバンパーがトレードマークである。これにより先々代の1800系は通勤車となったほか、先代の1810系は1900系に編入された。その後、冷房車である3000系の登場に伴って通勤車化された1900系だったが、後に冷房車となり、2008年の中之島線開業まで息長く活躍した。ご記憶の方も多いのではないだろうか。引退の際には再び赤・黄の特急色が復活し、大きな話題を呼んだ。

製造初年●1963（昭和38）年
定員●140人（座席58人）
自重●32.0t
全長●18,700mm

スマートな女王。いよいよ引退へ。

昭和46年（1971）登場。クーラー、世界初である座席の自動転換装置つきオールクロスシート、カラーテレビと快適性をさらに高めた。前面デザインに採用された左右の曲面ガラスや、車体裾を絞った優美なスタイルで京阪間に君臨。長く看板車両として人気を誇った。8000系登場後はその座を譲ったものの、奇跡的に生き残った１編成は、解体を免れて驚愕の２階建て化改造を受けて走り続けた。2008年に「3000」を譲り8000系に編入されるも、2013年春、ついにその軌跡に幕を下ろす。

製造初年●1971（昭和46）年
定員●140人（座席56人）
自重●35.00t
全長●18,700mm

快適至極、エレガント･サルーン。

京阪電車のイメージリーダーとして現役バリバリで活躍する「エレガント・サルーン」。平成元年（1989）、京都の出町柳駅開業時に増強用として登場したが、大きな固定窓によって実現された静かな車内や、１両ごとに車内の色調を変えるという遊び心があまりに好評だったために、先代の3000系を置き換えて増産をはかることになったほど。その後、ダブルデッカー（２階建て車両）を組み込み、2009年からはリニューアルを受けた。

製造初年●1989（平成元）年
定員●107人（座席56/54人）
自重●33.0t
全長●18,900mm

島民Vol.50.indd 5-6
12/08/23 3:32

2012京阪電車ここを見よ！

【名匠】、いま・むかし。2

特急車の他にも、「名車」と呼ばれる車両は多い。古い時代に生まれたものだけでなく、車両の個性が希薄化する昨今にあって、新しい車両にも流れる「京阪らしさ」をチェック。

回 生ブレーキ、エアサス、通勤冷房車、自動転換座席、多扉車、改造ダブルデッカー…。他社にも波及したスタンダードとなった関西初・日本初・世界初の機構を次々と導入する一方で、50年以上前に造られた電車をきちんと整備して長持ちさせたり、乗り心地の改善を目指して何十種類もの台車を採用。「進取の気性」「技術の京阪」の名高い京阪電車である。

鉄 道の技術開発の多くが省力化を念頭に置いているのに対して、京阪の技術はダイナミックに安全性や快適性を高めるだけではなく、思わずニヤリとしてしまう、いちびった工夫も多い（誉めてます、念のため）。ある程度完成の域に近づいた今日の電車にあっても、京阪ＤＮＡはからくり仕掛けよろしく客室のそこここにてんこ盛りだ。

こんなポイントを見ながら乗ると、いつもの電車がもっと楽しくなる。さあお立ち会い。京阪電車ならではの職人芸、あるいは匠の世界をとくとお楽しみあれ。

通勤車の先駆にして完成形。
5000系

首都圏が20年後に現れた多くの多扉車を持て余した一方、今なお朝の切り札として活躍するおなじみ５扉車。ラッシュ時以外は２扉を締め切り、座席を降ろす構造は空前絶後。特殊仕様の固まりと思いきや、アルミ車体、回転グリル送風機、跳ね上げ吊り革など、その後の京阪電車のスタンダードとなった機構を搭載するまさに名匠。

製造初年●1970（昭和45）年
定員●140人（座席48人）
自重●32.5t
全長●18,700mm

知る人ぞ知る名車はこれ。
京津線80型

旧京津線の併用軌道（路面）や急勾配のスペシャリストにして、運転士が「スポーツカー」と呼ぶほどの高性能車。東山の緑に映える特別色をまとった欧風の愛らしい車体に、低いホーム用の折畳みステップを備えたバリアフリーの先駆は、匠の名にふさわしい。地下鉄東西線開業に伴い引退したが、写真の82号が保存されている。

製造初年●1963（昭和38）年
定員●90人（座席40人）
自重●20.0t
全長●15,000mm

市民の手で復活も間近か!?
60型びわこ号

日本初の連節車（車体間に台車がある）で名高い、大阪と大津を結ぶ元祖・京阪特急。規格の異なる京阪線と京津線の直通用に、扉（高低）、集電装置（ポールとパンタグラフ）を2種類備えた匠ならではの常識破り電車で、経産省認定の近代化産業遺産。引退から40年、復活に向け寝屋川市と京阪電車の共同プロジェクトが進行中。

製造初年●1934（昭和9）年
定員●112人（座席60人）
自重●26.4t
全長●21,450mm

OLD

NEW

最新型の通勤車両。
13000系

2012年、宇治線にデビューした最新鋭車で、母体となった10000系＋3000系がその名の由来。４両編成だが、先頭に幌を付けて8両編成が組めたり、扉間の座席の下は空いている一方で車端部には従来通り脚台があって京阪電車お約束の「三角板」（銭湯のロッカーよろしく、掃除しやすいようカドが丸くなっている）があったりするのは匠のコダワリ。墨色や萌黄色など、京らしい車内の色遣いもオシャレ。

製造初年●2012（平成24）年
定員●128人（座席43人）
自重●36.0t
全長●18,900mm

新時代を告げるブルーカラー。
3000系 コンフォート・サルーン

6000系以来25年ぶりのフルチェンジは、中之島線開業時にデビューしたコンフォート・サルーン。ともすれば没個性化が進む昨今の電車の中で、懐かしささえ覚える左右対称の顔、随所に採り入れた「月」がモティーフの円弧、ハイバックの転換式クロスシートなど、ブランドの明確化に向けた「匠」の意志は健在。

製造初年●2008（平成20）年
定員●113人（座席37/38人）
自重●36.5t
全長●18,900mm

島民Vol.50.indd 7-8
12/08/23 3:32

2012京阪電車ここを見よ！

3駅の【遊び心】。

京阪電車には他の電車の沿線にはない、風情や個性のある駅が多い。そんな遊び心のある駅を見てみよう。

「眞晝である。特別急行列車は満員のまま全速力で馳けてゐた。沿線の小駅は石のやうに黙殺された」（横光利一『頭ならびに腹』）

なるほど、京阪特急に身を任せてのうたた寝の中では、途中の通過駅など気にならないのかもしれない。

しかし、京阪電車の魅力は駅にも宿っているのだ。

中之島線の各駅がグッドデザイン賞を受賞したのは記憶に新しいが、それもむべなるかな。ここでは5駅を紹介するが、全89駅のそれぞれが、いかにも「頑張りました！」という雰囲気はしなくとも、その地域や、建築された時代の特性を活かしながら軽妙なセンス（とマニアックさ）でまとめられている。

いつもよりちょっと早くいつもの駅を出て、思いつくままに途中下車をしてみよう。10分も待てば次の電車がやって来る。普段は降りない駅に降り立ったあなたの遊び心と、京阪電車の遊び心とがシンクロして、新たな世界が見えてくることだろう。

三条駅

「黒い礼服、茶を一杯、赤いニンジン、第三の男、四季、みどりご、青二才のロクデナシ、紫式部、ハイヤー、ホワイトクリスマス」。電気抵抗の色コードの暗記方法である。三条〜七条間はこれにちなんで橙色（三条）、黄色（四条）、緑色（五条）、紫色（七条）を構内のアクセントカラーに用い、「公共の色彩賞」を受賞。

宇治駅

京阪の駅なのに、移転した関係で駅舎とホームの間をJR線がまたぎ、近未来的なコンクリート打ちっ放しに円のモティーフとユニークさ満載。私鉄の駅としては初めてグッドデザイン賞に輝いた。あの南海電車のラピートでおなじみ若林広幸氏の設計と聞けば、ナルホド。

萱島駅

大阪行きホームを貫くのは幹周り7m、高さ20m、樹齢700年のクスノキ。高架複々線化の際に伐採予定だったが、保存を望む声に応えてこの形になった。大阪市より都市景観建築賞を受賞。京阪電車が制作した複々線工事完成記念写真集の題名も『クスノキは残った』。

伏見稲荷駅

ホームの柵や柱のまぶしい朱色、そこここに散りばめられた「伏見稲荷」「ふしみいなり」の文字や狐のモティーフが、お稲荷さんの玄関口にして、既に通過だけじゃもったいないパワースポットっぽさを感じる。普段は静かな駅だが、初詣の時には大にぎわい。

枚方公園駅

かつてはどの沿線にもあった私鉄系遊園地の中で、一人気を吐くひらかたパーク。枚方公園駅はひらパーのキャラクター、ヴィヴィッドな色遣い、楕円形の広告枠など、遊園地ノスタルジーが満開。ホームに立つだけで「連れてって」とおねだりした日が蘇る。

ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の懐徳堂プロジェクト

大正時代の電車路線図が登場

◎今回の教材
「電車明細 大阪案内図」

大正モダン華やかなりし頃に、大阪で販売された地図。28cm×40cm。大阪市電を中心に、市内を走る電車の路線と街が描かれている。機能性一辺倒の現在の地図とは違い、遊びを楽しむ趣があるところに、江戸時代の名所ブームにも通じる都市観光の目線を感じさせる。

◎今月の授業

【古地図】

2012年10月講座

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近代編〉②」

講師／本渡 章（作家）

古地図シリーズは早くも最終回。
電車の路線図から見える、「新しい時代」の感覚とは。

古地図を手がかりに歴史を読み解いていくシリーズもいよいよ最終回。今回、教材として登場するのは大正５年（1916）に発行された「電車明細 大阪案内図」だ。

大正時代に入ると、電車の路線を主役にした地図が多く作られるようになってくる。当時はまだ珍しかった電車を、新しい街の風景として歓迎する気持ちが込められていたのだろう。この地図にも駅が多く描かれ、ターミナルは大きく描かれるなど、機能性も高い。一見したところ、現在私たちがよく目にする地図と近い部分が多いようにも見える。

ただし、目的地に少しでも早く迷わずに着くという目的に特化した今の地図とは違い、なんとなく愛嬌がある。地図の題名の部分のデザインや、線路の描き方や駅名の表示など、電車に乗ってあちこちへと出かける楽しさを強調しているように見える。これを目にした大正時代の人たちは、目を輝かせて、どこへ行こうかとお出かけの計画を練ったのではないだろうか。大阪の〝古地図名探偵〟、本渡章さんの名解説をお楽しみに！

ほんど・あきら
『大阪古地図むかし案内』『続・大阪古地図むかし案内』（共に創元社）などのシリーズでおなじみの大阪古地図のエキスパート。歴史的な事実だけでなく、作者の思いや物語を古地図から読み解こうとする語り口が新鮮。

募集要項

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近代編〉②」
日時／**10月18日**（木）
7:00PM〜8:30PM（開場6:30PM〜）
会場／大阪市中央公会堂 小集会室
受講料／2,500円（教材費込み）
定員／100名
主催／ナカノシマ大学事務局
協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学10月講座」受付係　FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は
http://www.nakanoshima-univ.com

ケータイからはこちら！→

お問い合わせ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

島民Vol.50.indd 9-10　12/08/23 3:32

21世紀の懐徳堂プロジェクト 9月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介。

◎21世紀の懐徳堂プロジェクトとは…　ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。

大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。
※大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai(common café)まで。

1	土	9:00AM～/7:00PM～	**「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド)** 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆年中楽しめるパドルボード!バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!	会場**D**
8・13	土・木	8日 10:00AM～/2:00PM～ 13日 2:00PM～4:00PM	**「アトリコットのニットカフェ」atricot(ニットアーティスト)** 申込先:HP(http://atricot.jp) レッスン代:2,000円(ワンドリンク付き・材料費別途)　各自好きなものがつくれるニットカフェです。　※要予約	会場**E**
9・22	日・土	9日 11:00AM～2:00PM 22日 5:00PM～8:00PM	**ポーポー屋料理教室「皮から作ろう!餃子」中東ゆうこ(ポーポー屋・店主)** 参加料:3,800円(お持ち帰り付き) 誰もが好きな餃子!人が集まれば餃子!みんなで、皮から手作りして楽しみましょう～♪	会場**L**
13	木	7:00PM～9:00PM	**「Midosuji Talkin' About　vol.4 Marie's Viewpoint」** 参加無料 大阪市ーパリ市のデザイナー交流事業で大阪滞在中のマリー氏に、自身の関心、日本での活動について話を聞きます。	会場**H**
15	土	2:00PM～4:00PM	**「初心者のための絵画塾～クレパスってこんなにすごかったんや」柿坂万作(画廊喫茶フレイムハウス店主)** 受講料:2,500円(画材費込み)　クレパスを使って身近な静物を描いてみましょう。エプロン、手ぬぐいをお持ち下さい。	会場**F**
15	土	5:00PM～7:00PM	**「工作&アート教室Coppa!! -版画スタンプを作ろう!」ムラバヤシケンジ(工作教室講師／アーティスト)** 料金:1,200円(材料費別100円)　ゴム板を彫刻刀で彫って自分だけのオリジナルのスタンプを作りましょう!	会場**C**
15・26	土・水	15日 10:00AM～ 26日 7:00PM～	**「秋の訪れを感じる野菜たっぷりの中華料理おもてなし」藤本佳子(Marble-Cooking主宰)** レッスン代:4,200円(材料費、テキスト含む)　簡単で豪華に見える中国料理でおもてなしを楽しみましょう。	会場**B**
16・26	日・水	16日 11:00AM～1:00PM 26日 7:00PM～9:00PM	**三日月豆の苔玉教室『秋の山野草を使って苔玉を作りましょう～』松本佳子(三日月豆・店主)** 参加料:4,500円(材料費＋秋ご飯付き)　里山の秋を感じるような苔玉を作りましょう～♪秋のご飯のお楽しみも～♪	会場**L**
16	日	2:00PM～6:00PM	**「ネコ社長を作りましょう」IRIIRI(にんぎょう作家)** 参加費:4,200円(お茶とお菓子付き) 胸に三日月が付いたオオカミの布人形をつくりましょう!初心者の方も大歓迎です。糸切りばさみをご用意ください。	会場**K**
16	日	A 1:00PM～2:30PM B 3:00PM～4:30PM	**「TEA&BISCUIT◎紅茶教室」Yuriko(ティーコーディネーター)** 受講料:各2,000円(HIKEのマフィンと小さなお菓子付き)　日常の紅茶やおもてなしなど、自分の好きなスタイルで紅茶を楽しみたい方に。	会場**A**
22	土	2:30PM～4:30PM	**「ワイン講座」N.Lee(ワインコーディネイター)** 受講料:3,000円 アンモナイトの落し物!? ジュラ、サヴォワ地方のミステリーワインを4～5種ご紹介します。	会場**F**
23	日	10:00AM～11:30AM	**「カフェでご一緒に夏の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ)** 受講料:2,000円(ケーキ、コーヒー付き) ヴォイストレーニングを受けて「赤とんぼ」、「夕焼け小焼け」、「里の秋」、などを気持ちの良い声で歌いましょう。	会場**J**
23	日	1:00PM～6:00PM	**「好きな糸を選んでお花ブローチを作ろう!」booworks(手織り作家)** 参加費:525円 一本の糸がコサージュやアクセサリーに使えるお花ブローチに早変わり! たくさんの糸から好きな色を選んでスタート!	会場**K**
24	月	7:00PM～9:00PM	**「御堂筋Talkin' About vol.20『都心居住者の今』」** 参加無料 都心が利便性だけでなく、本質的に住む街として選ばれるには何が必要? 今回は都心居住について深掘りしていきます。	会場**I**
25	火	1:30PM～3:00PM	**「コミカレOSAKA昼版!日常にも仕事にも役立つコーチング講座・2」平田美佐子** 受講料:2,000円 申込先:http://kokucheese.com/event/index/45977/　円滑なコミュニケーションが出来る方法を教えます。	会場**E**
26	水	7:00PM～	**「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家)** 参加費:1,500円(お茶付き) 今回は、「ヘンゼルとグレーテル」を読む予定です。	会場**G**

A 雑貨屋Biscuit cafe　☎090-9254-1223
B Marble-Cooking
http://www.marble-cooking.com
C morrison(studio)　☎080-3113-4816
D 若松の浜　☎06-6125-0550
E ULTRA 2nd COFFEE AND DINER
☎06-6949-8804
F フレイムハウス　☎06-6226-0107
G 貸本喫茶ちょうちょぼっこ
http://www.geocities.co.jp/chochobocko/
H フラムテラス
http://www.osakagas.co.jp/flamme_t/
I 愛日会館　☎06-6264-4100
J カフェ アンドール 本町店　☎06-6243-0584
K タピエスタイル　☎06-6531-7827
L ポーポー屋　☎06-6531-7827

レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の［アートエリアB1］。9月のラインアップはこんな感じ。

1	土	7:00PM～8:30PM	**ダンスワークショップ「踊りにおいでよ!―第4回―」** 定員:30名程度 多彩な活動で注目のダンサーの砂連尾さんをゲストに迎え、だれでも楽しめるダンスの魅力についてワークを行います。
5	水	7:00PM～9:00PM	**シアターカフェ「セリフの覚え方3」** 定員:30名程度 今回は作家、演出家、俳優の黒木陽子さんをお迎えし、セリフを覚える際に気をつけられていることなどをお話しいただきます。
12	水	7:00PM～9:00PM	**中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「話が長いとは?」** 定員:50名程度 同じような話でも長いと感じたり、それほど気にならなかったりするのはどうしてなのでしょう。一緒に考えてみたいと思います。
13	木	7:00PM～9:00PM	**シリーズ:科学技術イノベーション「ユニバーサルデザイン」** 定員:50名程度 同志社大学教授／(株)ユーディット会長の関根千佳さんに、「ユニバーサルデザイン」がもたらす豊かさと多様性を伺います。
15	土	2:00PM～4:00PM	**ライフ&ミュージック「歌で語り合う」** 定員:50名程度 レゲエ・アーティスト、シャバジーをゲストに迎えて、ライフ(生命・生活・人生)とミュージックについて語り合います。
21	金	7:00PM～9:00PM	**中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「あなたの身近な公共性」** 定員:50名程度 ごみの問題から社会保障や科学技術の問題まで、身近なところからパブリック・エンゲージメントを考えてみませんか?
25	火	6:30PM～8:00PM	**サイエンスカフェ・オンザエッジ 10～先端の科学者が見ているコト・モノ～「ノーベル賞でたどる免疫学の歴史」** 定員:40名程度　ノーベル賞受賞者の研究内容を彼らの人生もまじえて振り返り、免疫研究の発展と成果をお話しします。

会場／アートエリアB1　参加費／全て無料　当日先着順・入退場自由　問い合わせ／［カフェの内容について］大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)☎06-6850-6632　［場所などについて］アートエリアB1 ☎06-6226-4006　※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾　大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

7	金	1:30PM～3:00PM	**「おもしろ日本語学～「どうせ」と「せっかく」に込めた気持ち」小矢野哲夫(大阪大学大学院言語文化研究科・教授)** 受講料／1,575円　「君には分からない」と「どうせ君には分からない」は受け止め方に違いが出ます。今回は、文頭の主観的な表現から、普段使っている「どうせ」と「せっかく」という副詞を取り上げ、そこに込められた話し手の気持ちを探ります。
15・29	土	10:30AM～12:00PM	**「未来を拓くツインサイエンス ～ふたご研究の最前線」加藤憲司(大阪大学大学院医学系研究科・特任教授)** 受講料／3,150円(全2回)　例えばふたごが共にがんになることは少ないですが、糖尿病は比較的多くの一卵性のふたごが共に発症しています。遺伝要因と環境要因の明らかになったこととこれから明らかになる可能性のあることについて解説します。

会場／大阪大学中之島センター　インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html　☎06-6222-5224　FAX.06-6222-5221　問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島)☎06-6222-5224

●第44回大阪大学公開講座「暮らしと科学技術の未来図」　サブテーマ:A これからのエネルギーを考える

12	水	6:30PM～8:00PM	**「エネルギー資源・地球温暖化問題とガスハイドレート」大垣一成(大阪大学大学院基礎工学研究科・教授)**
19	水	6:30PM～8:00PM	**「エネルギーの使い方を考える～製品ライフサイクルの視点～」梅田 靖(大阪大学大学院工学研究科・教授)**
26	水	6:30PM～8:00PM	**「太陽光エネルギーは主要エネルギー源になり得るか?」松村道雄(大阪大学太陽エネルギー化学研究センター・教授)**
10/3	水	6:30PM～8:00PM	**「分散電源による明るい社会～各種分散電源の特徴と大量導入への課題～」三浦友史(大阪大学大学院工学研究科・准教授)**
10/10	水	6:30PM～8:00PM	**「バイオ・再生可能エネルギーの可能性」三宅 淳(大阪大学大学院基礎工学研究科・教授)**
10/19	金	6:30PM～8:00PM	**「再生可能エネルギーを支える市民活動と法」大久保規子(大阪大学大学院法学研究科・教授)**
10/24	水	6:30PM～8:00PM	**「環境政策の変遷から考える、これからの環境イノベーション戦略」原圭史郎(大阪大学環境イノベーションデザインセンター・特任准教授)**

※10月31日～12月19日開講のサブテーマBについては21世紀懐徳堂HPをご覧ください。受講料／サブテーマAを全7講義受講の場合7,200円。サブテーマBを全8講義受講の場合7,200円。サブテーマABを全15講義受講の場合9,200円。選択受講の場合1講義につき1,500円　会場／大阪大学中之島センター　定員／各回70名(先着順)　申込方法／所定の受講申込書に必要事項を記入の上、郵送、FAX、メールにて。21世紀懐徳堂HPから受講申込書をダウンロードできます。受付期間／～9月7日(金)　※送付された受講申込書を確認後、「受講決定通知の連絡」を電話もしくはメールにて行います。連絡後、受講料を振り込み。問い合わせ／大阪大学公開講座担当☎06-6444-2137　kousya-syagaku-renkei2@office.osaka-u.ac.jp　詳細パンフレットは大阪大学中之島センターにもあります。

島民Vol.50.indd 11-12　12/08/23 3:32

神社の神格が時代によって変わることについては、『大阪の神さん仏さん』（P16）でも詳しく語られているテーマの一つ。講座に参加したことのある人もない人も、ぜひご一読を。

7月18日（水）　ナカノシマ大学7月講座『御霊神社 夏大祭』連動企画

「大阪の神さん仏さん〈特別編〉大阪の祭りと〝水〟」

@愛日会館

講師／釈 徹宗（相愛大学教授）
高島幸次（大阪大学招聘教授・大阪天満宮文化研究所）
ゲスト／小川 清（［平岡珈琲店］店主）

暑い、暑い、大阪の夏。その風物詩と言えるのが、各地で行われる神社の夏祭りだ。旧暦の６月、つまり現在の７月は、ほぼ毎日と言っていいほど夏祭りが目白押し。これは江戸時代から続いてきた大阪の伝統なのである。

その夏祭りにおいて特徴的なのは、「水」との関わりが深いこと。現在は天神祭の専売特許のようにすら思われている船渡御だが、実は他の神社でもよく行われていた。神様が神社から出てきて氏地を回るというのが渡御の主旨だが、船を使って回る方が便利なのは「水の都」にとっては当たり前なのだ。

そうした伝統を受け継ぐべく、淀屋橋にある御霊神社では、氏子の人たちの尽力によって昨年から夏祭りの船渡御が復活。今回の講座はその連動企画として、ナカノシマ大学ではおなじみの釈徹宗先生と高島幸次先生の〝神さん仏さんコンビ〟にご登場いただき、大阪の夏祭りと水の関係性について解き明かしてもらうこととなった。

講座が開催された日は、御霊神社の船渡御の当日。高島先生は猛暑の中、船渡御にも参列。「本当に暑かったです。でも、もっと暑くて大変な人たちがおられましたから、文句を言ってはいけません」と、まずは御霊神社の渡御の名物である甲冑に身を包んだ武者行列の人たちを讃えた。

そしてここから高島先生お得意の分析へ。江戸時代の史料や名所図会などを題材に、御霊神社の夏祭りと天神祭の船渡御の類似性を検証。江戸時代の夏祭りがどのようなものだったか、明らかになっていった。

御霊神社の祭神についても話題は展開。釈先生は、神社の名前の由来である「御霊信仰」について指摘した。これは、怨霊を神として祀ることで祟りを防ぐための信仰の総称。

その歴史を紐解いた釈先生の話を受けて、高島先生は御霊神社の神格が時代に合わせて変わっていったことを紹介。神様の性格は信仰する人々の気分によって機能するようにどんどん変わるのだが、それがまさに御霊神社でも起こっていることがわかった。

御霊神社の水との関連性については、祀られている神の一柱、瀬織津姫の名が挙がった。天照大神の荒々しい面である瀬織津姫は、神道の祭祀に用いられる祝詞の一つで、人間の罪や穢れの祓い方が述べられる「大祓詞」において、最後に登場して罪穢れを海に流す役目を担う。「御霊神社はその神を祭神として祀っていますが、実は御霊神社はもともと海のそばにあったことを考えれば、当然と言えるかもしれません」と高島先生。

神様、祭り、土地と、あらゆるところで大阪の神社は水と親和性があることが示された。

右／氏子の一人で、甲冑姿で武者行列に参加した［平岡珈琲店］店主・小川清さんもご登場。

古地図の楽しみ方を自ら披露しつつ、その喜びを受講生たちと分かち合おうとする姿勢も本渡さんの魅力だ。

7月26日（木）　ナカノシマ大学7月講座

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近世編〉①」

@大阪市中央公会堂 小集会室

講師／本渡 章（作家）

4月に行われた講座が大盛況に終わり、問い合わせも多くいただいたことから実現した「古地図で読み解く大阪の歴史」シリーズが、いよいよ７月から開幕した。前回の講座は古地図そのものの魅力を紹介する導入的な意味合いが強かったが、今月からは全４回に渡り、近世や近代といった時代ごとの地図を扱いながら、大阪を紐解いていく。

まず、前回のおさらいとして本渡さんが挙げたのは、香港の作家董啓章が著した『地図集』「北進偏差」の章から引用した一節。

「地図の記号構成は観察と現実描写の結果というよりも、あるグループの集団的無意識の投影と言うべきである」

「一つの正解を求めて事実のみを読み取るのではなく、昔の人が何を思ってその記号を使ったのか、なぜその表現をしたかったのかを想像することが、それぞれの時代の地図が持つ意味ではないでしょうか」と本渡さんは話す。古地図を通して、地図に込められた人間の「心」を味わうのが、まさに本渡式古地図の読み解き方なのだ。

さらに本渡さんが提示したトピックは「未来の人が見たときに、過去の地図はどう見えるのか」。平成の大阪市街図を例に、「キタやミナミというエリア名があるが、一体どこを基準として呼ばれているのか」といった、100年後の未来人が眺めているというシチュエーションで生まれる疑問が挙がっていく。普段あたりまえのように見慣れた地図の遊び方を覚えて帰ることができるのも、古地図講座の醍醐味だろう。

中之島が誇る中央公会堂で、ゆったりと古地図を広げながら本渡さんの語りに聞き入る受講生たち。

この講座の目玉は、受講生一人一人に教材として配られる古地図だ。今回配布されたのは、「辰年増補 大坂図」。これはテーマである近世の大阪を読み解くのに最適なものとして、本渡さんが選んだ初期大阪古地図である。

本渡さんは、この地図が本格的なものでありながら、作成者の名や発行年が記されていないことに注目。明記されていないにもかかわらず、本渡さんが地図が作られたのを元禄期（1688年～1704年）と推理するのはなぜか。一つ目は、江戸時代における北は丸、南は三角という特徴的な区画記号が地図に表れていること。次に、目を付けるのは大阪城の周囲を固める武家屋敷だ。「東町奉行所土佐守」、「西町奉行伊予守」、「藤堂松平因幡守」という図中の文字は、この三人がそれぞれの役職を務めていた年に地図が発行されたことを教えてくれる。「３人が同時に大坂にいた該当する年は1687年か1688年ですが、そのうち1688年が辰年です。すなわち、発行されたのは元禄元年と考えていいでしょう」と本渡さんの見事な推理が披露された。

わずかな手がかりから結論にたどり着くおもしろさを、今回も実践してくださった本渡さん。シリーズとなった次回の講座にも、ますます期待は深まる。

島民Vol.50.indd 13-14　12/08/23 3:33

中之島ふらふら青春記 最終回

心をこめた小さな本 後編

久坂部 羊

梅田の紀伊國屋書店の自費出版コーナーは、奥の洋書売り場の近くにあって、小さなカウンターに女性店員が常駐していた。横に自費出版した本を売る棚があって、見るとエッセイや詩集のほか、小説集も並んでいた。

私は恥ずかしさをこらえて、「僕も本を作りたいんですけど」と申し出た。店員の女性は親切で、本の体裁や大きさ、入稿から校了までの手順をていねいに教えてくれた。いちばん気がかりだった経費も、なんとか学生の私に支払えそうな額だった。

「本ができたら、ここで売ってもらえるんですか」と聞くと、少部数なら置きますとのことで、私の空想は一気に広がった。熱心な読者か編集者が私の本を手に取り、一読、感動、隠れた才能を発見とばかりに、私に連絡してきて、小説家への道が開ける……。

「じゃあ、原稿ができたらまた相談に来ます」

私は期待に胸を膨らませながら、意気揚々と家路についた。

しかし、本にするに相応しい原稿は、手元にほとんどなかった。新人賞に応募した原稿はコピーもとっていなかったし、自分でも不出来は自覚していたので、新しい作品を準備することにした。そのころ読んだ北杜夫の『どくとるマンボウ青春期』に、長い作品はむずかしかったが、原稿用紙10枚程度の作品はうまく書けたとあったので、私も短い作品に取りかかることにした。

執筆は家や図書館の自習室でしていたが、あるとき、大学で恰好の場所を見つけた。

当時、内科や外科などの臨床講義は、大学病院の8階にあるA講堂という広い部屋で行われていた。その少し離れたところに、「カンファレンスルーム」という教室くらいの部屋があった。そこになぜだかわからないが、さらに4畳半ほどの隠し部屋のようなスペースがついていた。窓はなく、簡素な机と椅子が置いてある。扉はカンファレンスルーム側と、廊下側に2カ所あり、奇妙なことに、両方とも内側から鍵がかかるようになっていた。すなわち、ここに入って両扉に鍵をかければ、だれにも邪魔されずに、原稿に集中できるというわけだ。

私は講義を抜け出し、よくそこで小説を書いた。講義中は廊下が静まりかえっているが、休み時間になると同級生たちが出てきて、自動販売機でコーヒーなどを飲みながら、話している声が聞こえる。彼らが勉強にいそしんでいる間、私は当てのない夢を頼りに、必死に自分の作品に取り組んでいた。その恍惚と不安。さらには歪んだ劣等感と優越感が、私を隠微な陶酔へと誘った。

illustration: maki yoshimura 14

この隠し部屋のいいところは、だれかが片方の扉を開けようとしても、もう片方の扉から脱出できることだった。あるとき、執筆に没頭していると、カンファレンスルームで心臓外科の医師らが会議をはじめた。かまわず書いていたら、だれかがカンファレンスルーム側の扉を開けようとした。もちろん鍵はかけてある。そのときは興が乗っていたので、そのまま原稿用紙に向かい続けた。

あきらめるだろうと思っていたら、心臓外科の医師は廊下側にまわってきて扉を開けようとした。当然、こちらも鍵はかけてある。しかし、これでは両側の扉が内側から施錠していることがバレてしまう。

「あれ、おかしい。どっちも鍵がかかってる」

「どうなってるんや」

外でそんな声が聞こえた。もし見つかればどんな叱責を受けるかしれない。私は慌てて原稿用紙を鞄に入れたが、身動きがとれないまま固まっていた。出ていって謝ろうか、それとも籠城するか。気分は斧で金貸しの老婆を殺害して、部屋に閉じこめられたラスコーリニコフそのものだった。

緊張して息を潜めていると、廊下側にいた医師がカンファレンスルームにもどる足音が聞こえた。今だ、と思い、廊下側の扉を開けて飛び出したら、Mという心臓外科の講師（この人は後に教授になった）が残っていて、ばったり鉢合わせしてしまった。

「あっ」

M講師は声をあげたが、私は顔を伏せたまま、ダッシュで走り去った。顔は見られなかったと思うが、それから当分、この部屋は使えなくなった。

しばらくして、私は原稿用紙5枚から50枚ほどの小説を6つ仕上げ、第1作品集の準備は整った。大きさはB6版。表紙はややくすんだ黄色い紙で、これは19世紀末にイギリスで出版された「イエロー・ブック」にあやかったものだ。「イエロー・ブック」は世紀末のデカダンスを満載した季刊文芸誌で、私の好きなオーブリー・ビアズリーがモノクロの秀麗なイラストを描いていた。

作品集のタイトルは「PAUL」。これは私が敬愛していたポール・ゴーギャンにちなんだものだ。表紙のデザインもゴーギャンの木版画にならい、タヒチ風な絵柄を木版に彫った。モチーフは前に差し出した自分の両手。独自の芸術表現を、いつかこの手につかみたいという思いを込めたものだ。

各作品の扉絵も自分で描いて、目次とあとがきもつけ、奥付も作成して、自費出版コーナーに持っていった。表紙の見本、ゲラの校正も担当の女性職員に手伝ってもらい、大学6回生の7月、待ちに待った第1作品集を100冊、私は感無量の思いで受け取った。

その足で婚約中の彼女といっしょに、この青春記にも書いた「ネスパ」に行って、ささやかな祝杯を挙げた。薄暗いレストランの片隅で、興奮と感激と胸が痛いほどの期待に、身体が震えたことを今も昨日のことのように思い出す。

その翌年、第2作品集「AUBREY」、さらに次の年に第3作品集「FRANZ」を出した。「AUBREY」はビアズリーに、「FRANZ」はカフカにちなんだ命名である。

これらの作品集は、自費出版コーナーの販売棚に置いてもらい、それぞれ10～15冊程度売れたと思う。期待したような展開はなかったが、住所を書いた紙をはさんでおいたので、何人かから手紙をもらった。同じ自費出版をしている小説家志望の男性とも文通するようになり、そのうちの1人が、こんなところで本を出してもダメだから、同人雑誌に入りなさいと勧めてくれた（当人は入っていなかったが）。

私は勧めに従い、地元の同人雑誌に加入し、それからさらに「VIKING」という関西ではメジャーな雑誌に加わることになった。そこでようやく孤立無援の閉塞から、開かれた世界に踏み出したような気がした。そういう意味で、自費出版で出した本も、必ずしも無駄ではなかったのかもしれない。

この小さな本を出してから、小説家としてデビューするまで23年。高校2年で小説家を志してからなら31年。まったく、ため息が出るほどの長い道程だった。

くさかべよう　1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。
麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。
現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。
「最初、6回程度の連載をということでスタートしたのが、延長で40回にまでなりました。
乾いた雑巾を絞るように書いてきましたが、ここまで続けられたのも読者のみなさまのおかげです。
ありがとうございました。去年の読書会での対談を含め、単行本化の予定です。それまでグッド・バイ！」

15

島民Vol.50.indd 15-16
12/08/23 3:33

ナカノシマ大学学友諸君!
これが課題図書である。

「大阪の神さん仏さん」
釈 徹宗　髙島幸次

昨年、ナカノシマ大学で５回にわたって開催された、釈徹宗先生と髙島幸次先生によるナカノシマ大学の人気対談講座「大阪の神さん、仏さん」がいよいよ発売。

身内びいきでコミュニケーション上手、合理主義で新しいもん好き、大阪の人々の精神性はどのようにして生まれてきたのか。住吉大社、四天王寺、生國魂神社、大阪天満宮など、土地に根差した神社やお寺に目を向けることから、大阪という都市や、そこに生きる人々の特性を読み解いていく。おまけに神道や仏教のこともよくわかる１冊です。

「はじめに」（釈 徹宗）より

大阪は、四方八方から流入してくるものが交差する場である。奈良からは大和川や生駒山地を通って、京都からは淀川経由で、大陸からは瀬戸内海を通って、物心両面さまざまなものが集積することで生成してきたのだ。時には反対勢力の拠点であり、時には埋葬の地となり、時には国の中心となり、時には商業都市であり、時には宗教都市であり、時には軍事都市となり、時には教育都市となり、時には工業都市となる。都市ごと性格を変貌させてきたのである。そのため、そこに住む人びとは、一人が複数の共同体に所属（重所属）するメンタリティを大切にしてきた。これが大阪人のコンプレックスを編み上げてきたのである。大阪人のコンプレックスはけっこう複雑である。大阪人は、「自分一人の力だけで生きているわけではない」ことを骨身にしみて知っている。

絶賛発売中!

定価1,575円（税込）　購入や取材などのお問い合わせは／株式会社140B☎06-4799-1340

〈特報〉
中沢新一『大阪アースダイバー』（講談社）出版記念 ナカノシマ大学で特別講座を開催!

10月開催予定。詳細は近日発表。諸君、刮目して待て。

第十二話

中之島フェスティバルタワーへ（4）
―引き継がれる牧神のシンボル―

今秋の竣工を控えて、外観はすっかり完成したように見える中之島フェスティバルタワー。土佐堀川に面した南の壁面を見上げれば、そこにはあのお馴染みのレリーフが復活している。

「牧神、音楽を楽しむの図」。昭和33年（1958）、新朝日ビルの新築にあわせて「行動美術協会」の彫刻部が制作したもので、建畠覚造（たてはたかくぞう）氏ら若手の彫刻家たちが共同でつくりあげた。太陽と月、星のもとで、ギリシャ神話の牧神たちが、笛や竪琴を奏でる様子を表現している。素材は信楽で焼かれた陶製で、「牧神」で縦横約4～6m、最も小さな「月」でも2mある、巨大な屋外彫刻だ。

レリーフを新しいタワーへ引き継ぐことは、計画当初から決まっていた。しかし古いレリーフを再び設置するのではなく、今回新たに制作し直している。新レリーフの制作を担当したのは大塚オーミ陶業。建築を飾る大型陶板や、テラコッタなどの焼きものを得意とする企業だが、彼らにとっても新レリーフは大きな挑戦だった。監修に旧レリーフ制作のリーダーであった建畠覚造氏の長男である彫刻家・建畠朔弥（さくや）氏と、同じく彫刻家の鷹尾俊一氏を迎え、旧レリーフと新レリーフを並べて床に敷くことができる大きな建屋を信楽の工場に確保する万全の体制で臨んだ。

土佐堀川と錦橋、そしてレリーフの組み合わせは、大阪を代表する都市景観の一つ。レリーフの背景をなすベージュ色の外壁は、10kgもある大きなレンガブロック約22万個で構成されている。一つ一つ、職人が手作業で積み上げた。わざと不揃いに積んで生みだした陰影が、これからの新しい中之島の景観をつくっていく。

都市美を伝えて
―朝日新聞と中之島の130年

取材・文／高岡伸一

レリーフの制作は2年以上の期間をかけ、慎重に進められていった。まず10分の1の模型をつくり、次に5分の1をつくって全体の見え方を確認した。部分的には実物大の試作も行い、意匠面だけでなく、技術的な検証も行っている。衝撃試験や振動試験などで強度や安全性も確かめた。

監修の朔弥氏は、今回の制作を「新解釈」と述べている。オリジナルの忠実な再現を基本としながら、現代の新しい感性で、細部のデザインや仕上げには変更を加えた。最も大きな変更はレリーフの配置だ。新しい壁面は旧ビルよりも一回り広いため、バランスを取ってかつてより拡がりをもたせた配置とした。

旧レリーフを見慣れた人は、新しいレリーフの鮮やかな青色に驚いたかもしれない。しかしこれはオリジナルで用いられた信楽焼のガラス釉を再現したものだ。50年の歳月があのような深い色にしたのだが、新しい色に驚きを感じるということは、このレリーフが半世紀の間に、中之島の風景として、すっかり馴染んでいたことを意味している。中之島フェスティバルタワーは、その都市の記憶と景観を、新しい感性と技術で引き継いだのだ。

都市の美しさは、一から新しく生み出せるものではもちろんないが、しかし過去の歴史を単純に引き継いだだけでも残らない。新時代の感性と技術がそのもてる力の全てで応えて、はじめて伝わっていくようなものではないだろうか。それはいわば都市のプライドのようなもの。朝日新聞と中之島の130年が、そのことを物語っているように思われる。

（おわり）

提供／株式会社 朝日ビルディング
http://www.festivaltower.jp/

中之島フェスティバルタワー

FESTIVAL TOWER

小学校の頃、成績のよい女の子特有の〝ええ匂い〟というのがあった。石鹸のような、あるいはシトラスのような…。中之島でそういう〝ええ匂いのするエリア〟が、この旧阪大エリアである。1977年、今から思えば大阪がええ時代やった頃、万博公園からこの地に移って来た。さすが国立！なコレクションの豊富さ。長蛇の企画展で人を攫うのも、いつもこの美術館が震源となっている。そしてこの〝ええ匂いのする〟同館にも友の会が存在する。「もちろん様々な特典はありますが、会員の皆様は国立国際美術館のサポーターという感じでいらっしゃる方も多いんじゃないでしょうか」とは同館学芸課の池田良子さん。観覧料の割引、ショップやレストランでの特典、コンサートや講演会への参加など、盛りだくさんの特典メニューが用意されていて、お得な上に美術館との一体感も味わえるのだ。

「年齢層も幅広くご入会いただいていますね。学生会員という枠も設けていますので、老若男女さまざまな方に友の会は支えられてます」と池田さんが言う通り、層の広さに驚かされる。

「国立ですから特に大阪最厚というワケではないんですが、関西のアーティストさんとのつながりはやっぱり深いです。大阪でしかできない何かってきっとあると思いますし、これからも来て楽しんでいただける企画をどんどん考えていきます」

鳴り物入りの企画展の数々も毎回見逃せないが、通常のコレクション展でのラインナップ〜展示方法までが、さすが国立なセンスの良さが美術ファンにとっては堪らないのが同館の魅力である。

「少し会費は高いんですが、特別会員というカテゴリーも設けていて、現在14名の方にご入会いただいてます」。この特別会員も審査など特になく美術館への熱い想い（会費）でなれるというのがさすが太っ腹なのだ。

中之島エリアの〝ええ匂いのする美術館〟で、タニマチよろしく友の会員になってみるのも悪くない。あなたにとって優雅な昼下がりになること間違い無しなのである。

続・中之島に「入会」しませんか?

「会員」のススメ。

取材・文／石原 卓（本誌）

右は、9月30日（日）まで開催の「リアル・ジャパネスク」展に伴って行われたアーティスト・トーク会場風景。人気のイベントでも、会員ならば優先的に参加できる枠がある。

国立国際美術館　友の会

ハイセンスな美術館に籍を置く喜びが、アートを支えている!

国立国際美術館 友の会

一般の年会費は5,000円だが、学生なら懐に優しい3,000円。特別展やコレクション展を無料で観覧できたり、館内施設での割引といった特典が付く。ほかにもペア会員やファミリー会員が用意されていて、周囲を巻き込んでアートを楽しんでほしいという思いがこめられている。しょっちゅう訪れたい人は特別会員20,000円という手もあり。展覧会のレセプションへの出席など、まさに「特別」な特典については友の会事務局まで。☎06-6447-4680
http://www.nmao.go.jp/

ナカノシマニア

取材文／大迫 力（本誌）

かつて大阪の船場には6つの市立小学校があった。愛日・船場・久宝・集英・汎愛・浪華の6校が、北は土佐堀川から南は長堀川（長堀通）、東西は両横堀川に挟まれたエリアにあった。オフィスビルが建ち並ぶ今となっては想像もつかないが、それだけ多くの人が住む街だったのだ。太平洋戦争末期の空襲により、そのほとんどが焼失してしまったが、現在は淀屋橋odonaが建つ場所にあった愛日小学校は幸いにも戦災を免れた。

創立は明治5年（1872）。両替商「升屋」の当主だった山片重明が、自らの邸宅を土地や建物ごと寄贈して誕生したという逸話を持つ。平成2年（1990）、同じく戦火を逃れた集英小学校と統合し、開平小学校として生まれ変わるまで、数多くの卒業生を送り出した。今も船場や中之島界隈では、愛日小の卒業生によく出会う。

戦後間もない昭和22年（1947）に入学した梶本孝治さんもその一人。同じクラスの同級生たちと折に触れて同窓会を行っていたが、2008年に集まった際、自分たちが古希（70歳）を迎える2010年の同送会に向けて文集づくりを始めることになった。1学級55人（！）のうち有志24人が手記を寄せた文集は、『GHQの兵隊さんと船場の子どもたち』の名で発行された。そして今年7月、この文集をベースに梶本さんが加筆・再構成した『孝子愛日〜GHQ占領下の船場の子どもたち』が出版された。

旧愛日小学校の思い出を紡ぐ本が出版された。

「校舎はなくなってしまったけれど、たくさんの人の思い出が残る学校のことをちゃんと知ってほしかった」と話す梶本さん。筆をとった理由はもう一つ、自分たちが受けた新しい教育体制について伝えたったからだ。

「私が入学した年に新しい教育基本法が施行され、六・三制が始まりました。戦後教育はGHQからの押しつけだとよく言われますが、そんなことはありません。愛日小の生徒は占領下でものびのびと過ごしていたし、先生や地域の人たちも子供たちの成長を願って『新教育』を育んでいたんです」

そんな思いの詰まった本を見て、愛日小の同級生で大阪天満宮文化研究所の近江晴子さんは「新教育について学年を追って書かれていて、『ああそういうことだったの』と、初めてわかりました」と驚く。同じく同級生で本の装丁画の作者でもある清起子さんも「文集の内容を補足する文章も加わって、一つの物語としてよくまとまっているなぁと思います」と、〝梶やん〟こと梶本さんの労をねぎらう。

去る8月25日、開平小学校では、愛日小から受け継いだ貴重な蔵書「愛日文庫」の曝書（虫が付かないよう風を通す）が卒業生たちの手によって行われた。その中には、明治時代の創立時に山片家から譲り受けた和本もあった。こんな風に情熱と愛校心に溢れる船場の人々に見守られ、愛日小の歴史は語り継がれていく。梶本さんももちろん、その一人である。

右から近江さん、著者の梶本さん、杏中さん、そして愛日文庫の管理などを行う愛日教育会事務局の丸山悦治さん。丸山さんは「愛日文庫を伝え継ぐ」という文章を特別寄稿した。「ちゃんと知ってもらえる機会を得られて光栄です」と丸山さん。

『孝子愛日〜GHQ占領下の船場の子どもたち』

著者の梶本孝治さんはじめ、「古田学級一期生」の面々が書いた思い出の文集をベースに、梶本さんが補記を加えて出版。GHQの占領下にあった大阪で、子供たちがどのように学び、育ったのか、卒業生の肉声によって語られる。スパルタながらも情に厚い、担任の古田早苗先生（男性）の個性的なパーソナリティも、「兄弟よりも深い」というクラスの連帯感を生んだようだ。定価2,100円。購入などの問い合わせは☎06-6304-9325（株式会社ユニウス）へ。

島民Vol.50.indd 19-20
12/08/23 3:33

今年も開催！大阪クラシック 新たな試みも

©飯島隆

2006年から開催され、今年で7年目を迎える「大阪クラシック」。大阪フィルハーモニー交響楽団の桂冠指揮者である大植英次氏が全面プロデュースし、文字通りその演奏は御堂筋沿いや中之島を主な会場として披露される、まさに大阪でしかできない7日間の音楽の祭典だ。例年5万人もの入場者を誇っているのは、その本格的なハーモニーのほとんどを無料で鑑賞できるという点が大きいだろう。敷居の高そうなクラシック音楽を気軽に楽しめる人気の高さから、今年は昨年よりも拡大した全90公演が行われる。

さらに新たな試みとして、大阪フィルハーモニー交響楽団に加え、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団の大阪を代表する3つのプロオーケストラや、相愛学園の伝統あるオーケストラの初参加も決定している。

会場は大阪市役所や中之島ダイビルのほか、中之島界隈のカフェやビルも多いが、ゆったり座って音の広がりを楽しみたい人には予約必須の有料ホール公演も用意されている。クラシック初心者から詳しい人まで、さまざまな層が満足できる充実ぶりだ。
（江口由夏・本誌）

大阪クラシック
期間／9月2日(日)～9月8日(土)
時間／10:30AM～8:30PM　※開催日によって異なる
会場／大阪市立中央公会堂、大阪市役所、
中之島ダイビル、アートエリアB1、相愛学園 本町講堂、
ザ・フェニックスホールなど
料金／無料（一部有料公演や整理券が必要な公演あり）
お問い合わせ／大阪市総合コールセンター☎06-4301-7285
※日程や曲目、会場など詳しくは
http://www.osaka-phil.com/oc2012/

寅さん、南座に復活！最後のフィルム上映

©松竹株式会社

「フーテンの寅」こと車寅次郎が、日本中をめぐる人情劇『男はつらいよ』シリーズや、『たそがれ清兵衛』『武士の一分』といった武士道を貫く男たちを描いた時代劇など、日本人の琴線に触れる人間ドラマを次々と生み出してきた山田洋次監督。その監督生活50周年を記念し、京都の南座では、これまでの全80作品が35ミリフィルムで日替わり上映されている。毎日2作品ずつ、午前中は「男はつらいよ」シリーズ、午後はその他の作品と、邦画好きには願ってもない機会だ。

これは「山田洋次の軌跡～フィルムよ、さらば～」と題されているとおり、大劇場での最後のフィルム上映となるそう。劇場には、これまで使用された撮影機材や山田監督作品にまつわるパネル展示も。なんと『男はつらいよ』シリーズでおなじみ、団子屋「くるまや」のセットも登場。記念写真撮影もできるので、寅さん気分を体験できる。下町の人々の笑い声が聞こえてきそうな空間には、京都まで足を運ぶ価値あり。中之島や大阪からでも、京阪電車なら乗り換えなし。ぜひ懐かしさと共に、寅さんの復活を味わってほしい。（江口由夏・本誌）

「山田洋次の軌跡～フィルムよ、さらば～」
期間／前半:9月23日(日)まで 後半:10月6日(土)～10月24日(水)
月曜休(祝日の場合は、翌日休み)
開館時間／10:15AM～6:00PM(最終入場は5:30PM)
料金／入館料500円　映画鑑賞500円(1作品につき)
映画セット体験コーナー500円
南座1日フリー券 前売り1,500円(当日1,700円)
問い合わせ／京都四條 南座☎075-561-1155
チケット内容や上映作品など詳しくはhttp://www.shochiku.co.jp/play/minamiza/schedule/2012/8/post_82.php

大阪市立科学館で天文学の歴史をのぞく

天象列次之圖

プラネタリウムでおなじみの大阪市立科学館では、江戸時代前半に活躍した天文学者、渋川春海の功績をたたえた展示が始まる。もともと将軍に仕える碁打ちだった渋川春海が独学で天文学を会得し、日本初の暦を編み出した生涯に迫る企画。星座の研究に熱心だった彼が刊行したすべての星図や、現存最古の肖像画を始めとする30点もの資料が一堂に会するのは初めてのことだそうだ。期間中は、日本ならではの天文学を成立させたその人物像を掘り下げていく講演会や、月刊島民にも何度かご登場いただいた天文学のエキスパート、科学館の担当学芸員の嘉数次人さんらによるギャラリートークも予定されている。

また、折しも彼を主人公とした映画『天地明察』の公開を控えており、撮影で実際に使われた星の高度を測る巨大分度器「象限儀」や、暦についてまとめられた書物なども展示されるとのこと。金環日食に沸いた今年、天文ブームはまだまだ続きそうだ。
（江口由夏・本誌）

渋川春海と江戸時代の天文学
―「天地明察」の時代―
期間／9月4日(火)～10月21日(日)
時間／9:30AM～5:00PM
料金／大人400円 高大生300円
中学生以下無料
※展示所4階東側のみ観覧有料・
地下1階アトリウムは無料
問い合わせ／大阪市立科学館
☎06-6444-5656
http://www.sci-museum.jp/

大阪を冷やそう 市役所前で「打ち水」

去る7月20日、大阪市役所正面玄関前にて、「大阪打ち水大作戦」打ち初め式が行われた。「大阪打ち水大作戦」は、夏のヒートアイランド現象を緩和して少しでも涼しく過ごせるよう、打ち水を積極的に行おうと呼びかけるためのもの。道路や庭に水をまき、涼しい風を取り入れようとする打ち水は、昔ながらの日本人の知恵であり、身近なヒートアイランド対策として注目されている。

イベントでは、打ち初めに先立ち歌手の嘉門達男さんがミニライブを披露。小雨が降るあいにくのお天気までネタにして、集まった人たちをたっぷり笑わせてくれた。その後の打ち初めでは、浴衣姿の市役所職員の方々のほか、お風呂の残り湯などを持って参加した一般の人たちも参加、たっぷりと水をまいた。その後、7月31日に中之島三井ビルディングでも行われるなど、継続的に開催。このプロジェクトは、夏の間、大阪市内各所で続けられていく予定だという。（大迫 力・本誌）

イタリア文化会館の初心者にやさしい入門講座！

気持ちも新たな9月。何か新しく始めたいという人におすすめなのが、朝日新聞ビル内にあるイタリア文化会館での語学講座。授業内容のレベルや受講時間は細かく分けられているため、無理なくマイペースにイタリア語を習得できる。旅行や自己紹介に役立つ日常会話から、イタリアの技術や社会問題に迫るビジネス会話などもあるため、自分に合ったコースを選ぼう。会話だけでなく、イタリア映画を吹き替えなしで観賞してみたい、イタリア語のレシピをすらすら読んでみたい、という人に適したコースも。夜間の受講も可能なので、アフター5に立ち寄れるのも嬉しい。まずは無料体験レッスンで、クラスの雰囲気を実際に味わってみてほしい。

さまざまな講座やイベントを開催している同館の取り組みの中で、今秋の注目は、多くのヨーロッパ言語のルーツでありながら現代人にはなじみが薄いラテン語。中之島の一角で気軽に古典言語を学べる機会はそうそうない。勉学の秋を満喫するいい機会だ。他にも、初の試みとして基礎デッサンコースが開講。イタリア人アーティストが登壇し、現地の美術学校で用いられている学習法にならって指導する貴重な場だ。芸術の秋、ルネッサンス期の巨匠になりきって、絵になる中之島を描いてみよう。（江口由夏・本誌）

イタリア語講座・総合コース
受講料／90分授業×12回 35,000円
期間／9月～12月

イタリア文化講座・基礎デッサンコース
受講料／21,000円(教材費込み)
時間／7:45PM～9:15PM
期間／9月～12月の木曜日・全6回
9月12日(水)6:00PM～デッサンコースの説明会あり。
授業内容や日程、その他講座ラインアップなど、
詳しくはhttp://www.iictokyo.com/osaka/にて。
問い合わせ／イタリア文化会館☎06-6229-0066

島民Vol.50.indd 21-22　12/08/23 3:34

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！

『月刊島民』はここでもらえます。

●**京阪電車関連**　京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋

●**大阪市北区・中央区・福島区**　［書店］旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛堺書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文数堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店

［公共施設・大学関連施設など］アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素　食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪フィルハーモニー会館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院　大阪城スクエア／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町

［店舗・医院など］アリアラスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鰻料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO（オー）／カセッタ／喫茶カンタータ／喫茶SAWA／グランスイート中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タピエスタイル／ティーハウスムジカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャーノ／パストラーレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラ・クッカーニャ／LES LESTON

●**大阪市内その他**　［書店］伊勢屋書店／大阪書店／紀伊國屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ルーブル書店　［公共施設・大学関連施設など］大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館

［店舗・医院など］あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリバール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A

●**大阪府下**　旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 くずはモール店／水嶋書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・社学連携事務室／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ

●**大阪府以外**　ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／大手通りストリートギャラリー 街・発信／納屋工房／タバーン・シンプソン／百練／奈良県立図書情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円（手数料）でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 **昭和の、あの日。**

多くの人の胸に刻まれた、昭和の中之島の名所・名場面。
今はもうないけれど、どこか輝かしく熱っぽかったあの時代をふり返る。

●『月刊島民』vol.51は2012年10月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作　網本武雄（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創　大迫 力（編集集団140B）
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340　Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

ちょっと、隣のビルまで。

取材・文／大迫 力（本誌）

特別編

BMC『いいビルの写真集』

渋い、レトロなビルは、丁寧に造られ、使われてきたその証でもある。

OMMビルは船上からのナイスアングルの写真が見ごたえあり。かつては大阪で一番背が高かった。

オールカラー。主要な写真は1人の写真家に撮ってもらうこだわり。その空気感をとくとご覧あれ。

川沿いに建つビルをめぐるページ。普段は気づかないが、「言われてみれば確かに渋い！」ビル多し。

そもそもこのコーナーは、ふだんよく目にするけれど、そこで働いている人でもなければなかなか入る機会のない「隣のビル」に入ってみようという主旨である。ただ、今回はちょっと趣向を変えて、そのビルを見て歩く楽しみを教えてくれる本を紹介することにしたい。

本誌連載でもおなじみ、建築家の髙岡伸一さんをはじめ、1950～70年代のビルが好きな面々が集ったBMC（ビルマニアカフェ）が、本を出版した。その名も『いいビルの写真集』。BMCが愛してやまない大阪のビルの中から、表紙になっている綿業会館新館を筆頭に厳選。中之島界隈でも、ビル・リバーセンター、リバーサイドビルディング、リーガロイヤルホテル、旧新朝日ビルなど多数選ばれているのは島民としては嬉しいところだ。

ところで、5人のメンバーが好きなビルに、「1950～70年代の」というただし書きが付くのは、この時代には丹精込めて造られたビルが多いからだ。ちょうど高度成長期にあたり、好況を背景に、建てる施主もしっかり想いを込め、それを受けて造る職人たちも丁寧な仕事をした。そうしたビルは、半世紀ほどを経た今、いい具合に古び、現役感の中にも味わい深い渋さが滲み出ている。

ただ、そうした〝見た目〟の話よりも、大量生産・大量消費的ではない建物と人とのいい関係にスポットを当てているところにこそ、この本の一番の魅力を感じる。スクラップ・アンド・ビルドではなく、手間暇をかけてつくったものを長く大事に使う。そうしたライフスタイルへの共感が、BMCの人気の背景にあるのではないだろうか。

ある意味ではそれは街での過ごし方にもつながる。新しくできたスポットや新発売の商品を追うばかりが街で遊ぶことではない。ビルも、人も、歴史も含めて、街に今あるものに敬意をはらって面白がる。そんな気持ちで、ちょっと、隣のビルまで。

『いいビルの写真集』
（パインターナショナル・2,100円）

BMCの面々が、これぞと思う大阪のビルを、想いの限りをつづった文章と撮り下ろし写真で紹介する心のこもった1冊。「なんとなく」ではなく、窓やタイルなどのディテールまでしっかり解説するところに、メンバーの気合が感じられる。建物だけではなく、関わる人々の物語も読み応えがある。◎9月8日（土）まで、［Calo Bookshop & Cafe］にて、この本のために撮り下ろされた、カメラマン西岡潔さんによる大阪の「いいビル」の写真展が開催中。

島民Vol.50.indd　23-24　12/08/23　3:35

月刊島民 中之島 50号 2012年9月1日発行 編集・発行人／江弘毅（140B） 編集・発行／月刊島民プレス 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

宇治橋

月桂冠大倉記念館

ひと味ちがう、
はんなりです。
京阪電車の京都旅。

京都市街の中心部から
南にひと足で、
茶どころ宇治、酒どころ伏見。
それぞれに歴史と
文化あふれる2つの名所は、
同じ川、水の恵みで
つながっていました。
京都、だけど、ひと味ちがう、
新しい京都旅へ。
でかけませんか、
京阪電車にのって。

※ 詳しくは、ホームページ（www.okeihan.net）または
京阪電車主要駅でパンフレットをご覧ください。

宇治・伏見 1dayチケット

大人 550円～900円

小児 280円～450円

※乗車駅により異なります。

◎通用期間：発売日当日
◎発売期間：2013年4月14日（日）まで
◎発売場所：京阪線各駅
（大津線各駅・男山ケーブルを除く ※駅係員配置時間内に発売）

宇治・伏見、水と歴史の、まちめぐり。

お問い合わせ
京阪電車お客さまセンター
☎06-6945-4560
平日9:00～19:00
土・日曜・祝・休日9:00～17:00
※12/30～1/3は休業

島民Vol.50.indd 1 12/08/23 3:31